

東京大学海洋アライアンス・日本財団 共同シンポジウム

日本海 小さな海の大きな恵み

2013年7月10日(水)~16日(火)

シンポジウム・トークショー講演要旨集

シンポジウム

2013年7月15日(月・祝) 13:00~17:30
三越劇場(日本橋三越本店 本館6階)

トークショー

2013年7月13日(土) 14:30~16:30 (第1話、第2話)
7月14日(日) 10:30~11:30 (第3話)
日本橋三越本店 新館9階 カルチャーサロン

Program & Abstracts

本共同シンポジウムは、「海の日」にあたって、
私たちにとって身近な「日本海」の魅力と恵みを分かりやすくご紹介することを目的として、
東京大学海洋アライアンスと日本財団が共同で主催するものです。

シンポジウム

7月15日(祝) 13:00-17:30 三越劇場

●プログラム

13:00 開会挨拶 笹川陽平(日本財団会長)

第1部 講演(13:10 ~ 14:30)

13:10 「知っているようで知らない日本海」 瀧澤美奈子(科学ジャーナリスト)

13:50 「船乗り人のメッセージ」 安田喜憲(東北大学教授)

第2部 講演(14:45 ~ 16:05)

14:45 「揚子江(長江)に降る雨が日本海を変える」 多田隆治(東京大学教授)

15:25 「日本海を大回遊する水産資源の現状と未来」 木村伸吾(東京大学教授)

第3部 パネルディスカッション(16:20 ~ 17:20)

パネリスト：シンポジウム及びトークショーの講演者

ゲスト：安めぐみ(タレント・女優)

17:20 閉会挨拶 日比谷紀之(東京大学海洋アライアンス機構長)



総合司会：松本 真由美(まつもと まゆみ)

東京大学教養学部教養教育高度化機構 客員准教授(環境エネルギー科学特別部門)。専門は環境／科学技術コミュニケーション。テレビ朝日報道局を経て、NHKBS1ワールドニュース、CNN(JCTV)のキャスターとして国際ニュースを伝える。現在は東京大学での教育と研究活動の傍ら、講演、司会、コーディネータ、執筆など幅広く活動する。



ゲスト(第3部)：安めぐみ(やす めぐみ)

タレント・女優

1981年12月22日 東京生まれ。中部日本放送「ゴゴス GoGo!Smile」、BS朝日「職人の麵工房」、BSフジ「カンニングのDAI安吉日」へのレギュラー出演をはじめ、テレビ・ラジオ、舞台、そして雑誌等で幅広く活躍。



コント：エルシャラカーニ

セイワ太一(左、1971年生まれ)と山本しろ(右、1973年生まれ)のコンビで1997年に結成。THE MANZAI 2011、2012のファイナリスト。テレビ・ラジオに多数出演中。



コント：かもめんたる

槇尾ユウスケ(左、1980年生まれ)と岩崎う大(右、1978年生まれ)のコンビで2007年に結成。キングオブコント2012 決勝3位。テレビ、ドラマ、ラジオ、CM、舞台に多数出演中。

※各講演の冒頭で内容についてのコントが行われます。



知っているようで知らない日本海

瀧澤 美奈子

<プロフィール>

たきざわ みなこ：科学ジャーナリスト。お茶の水女子大学理学研究科物理学専攻修了（修士）。物理学をベースに広い分野の科学をわかりやすく楽しく伝えるための著作活動を行っている。現在、日本科学技術ジャーナリスト会議理事。慶応義塾大学大学院非常勤講師。

日本海と聞くと、皆さんは何をイメージしますか？

よく使われるたとえがあります。それはなんと「洗面器」です。ちなみに、太平洋は大浴場。洗面器であるという日本海の地形的な特徴が、その性質を決定的に決めているのです。

日本人の食卓を支えるのは、なんとといっても米です。日本の米作を支えるのが大量の水です。その主要な供給源が日本海なんです。といっても、もちろん塩辛いままの海水ではありません。天の浄水器とおして降ってくる「雨」です。山間地域に数メートルも積もる豪雪は、春に雪融け水となり、ふもとで大量の水を必要とする田植えの頃に水田を潤すのです。

より直接的な恵みとして、抜きにできないのが海の幸です。かつて北前船は、日本海側各地を寄港しながら貿易を行って莫大な利益を上げましたが、その中心には日本海の海の幸がありました。日本海の家産物は、そのものが単独で存在するだけではなく、洗練された日本の伝統的食文化として発展したものであることも見逃せません。

本日は日本海の魅力を再発見し、日本海の素晴らしさを味わっていただけるようなお話ができればと思います。



船乗り人のメッセージ

安田 喜憲

<プロフィール>

やすだ よしのり：東北大学大学院環境科学研究科 教授。1974年東北大学大学院理学研究科博士課程中退。その後、1978年に理学博士（東北大学）。専門は環境考古学。広島大学総合科学部助手、国際日本文化研究センター助教授、教授を経て現在に至る。1996年中日文化賞受賞、2007年紫綬褒章、2010年中山賞大賞受賞。

鳥取県淀江町の淀江遺跡からは弥生時代の土器に描かれた画が発見されました（本館3階のパネルに展示しています）。それは羽飾りの帽子をつけた船乗り人が、必死に船を漕いでいる画でした。さらに出雲大社と思われる高層の建物と太陽と思われる同心円状のものも描かれています。

この画の解釈は長江文明が発見されたことにより明らかになりました。それはかつて環日本海から環東シナ海の稲作漁撈社会には、鳥と太陽を崇拜する世界があったということです。人々はネイティブ・アメリカンのような羽飾りの帽子をかぶり、太陽を崇拜し、山を崇拜し、柱を集配し、玉を崇拜し、蛇を崇拜する世界観を持っていました。その世界観は古墳時代の装飾古墳にも描かれています。

日本の基層文化にはこの稲作漁撈民の世界観があることを講演では報告したいと思います。

参考文献：安田喜憲『稲作漁撈文明』雄山閣 2009年



揚子江（長江）に降る雨が日本海を変える

多田 隆治

<プロフィール>

ただ りゅうじ：東京大学大学院理学系研究科 教授。1981年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）。2010年、日本第四紀学会学会賞受賞。専門は古気候学、古海洋学。日本学術振興会奨励研究員、東京大学理学部助手、講師、助教授の後、東京大学大学院理学系研究科准教授を経て現在に至る。

日本海は、狭く浅い海峡でのみ外洋とつながる孤立した海で、その海況は対馬海峡から流入する海流の性質に左右されます。対馬海峡からの海流は日本海に流入する唯一の海流で、黒潮の分岐流である対馬暖流が対馬の南東側海峡から、東シナ海陸棚上を北東に流れる台湾暖流が北西側海峡から流入しますが、後者は流入の際に東シナ海沿岸水を日本海に引き込みます。

東シナ海沿岸水は、低塩分、低水温、高栄養塩濃度で特徴づけられ、梅雨時の揚子江流出量増大に伴って対馬海峡口まで張り出します。一方、対馬暖流は、高塩分、高水温、低栄養塩濃度で特徴づけられます。従って、流入する海水の塩分や水温、栄養塩濃度は東シナ海沿岸水の寄与率に左右され、それは揚子江の流出量によって決まります。そして揚子江の流出量は梅雨時の降水で決まり、それは偏西風に制御された梅雨前線の停滞位置に左右されているのです。

では、偏西風軸の位置や揚子江流出量は過去にどう変化し、それに伴って日本海の家況はどう変動して来たのでしょうか？ 講演では、東シナ海や日本海海底から採取された堆積物コアの解析を基に、日本海の家況が揚子江に降る雨にどう影響されてきたのかをお話します。



日本海を大回遊する水産資源の現状と未来

木村 伸吾

<プロフィール>

きむら しんご：東京大学大学院新領域創成科学研究科／大気海洋研究所 教授。1989年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）。専門は水産海洋学。日本学術振興会特別研究員、東京大学海洋研究所助手、助教授を経て、現在に至る。2011年水産海洋学会宇田賞受賞。海洋アライアンス副機構長。

日本の食文化を語る上で不可欠な高級食材としてマグロはよく知られていますが、近年の資源状況の悪化から、持続可能な利用と資源管理が国際的な議論の的になっています。とくにその資源の減少が懸念されているのは本マグロと呼ばれるクロマグロであり、太平洋を横断する極めて大きな回遊範囲を持つにも関わらず、他のマグロ属魚類と比較すると東シナ海の極めて小さな海域において初夏にしか産卵しないことが特徴です。つまり、わずかな地球環境変動が大きな資源変動をもたらす可能性があるものであり、そのリスクを避けるために10年以上もの長い寿命を持っているともいえます。東シナ海は様々な水産生物の産卵場であるのですが、クロマグロとは対照的に大衆食材として知られているのがスルメイカです。一般的にイカの寿命は1年と極めて短いのですが、秋から冬を中心に長い産卵期を持っており、寿命の短さに伴うリスクを分散している可能性があります。いずれの魚種も黒潮の源流域に近い東シナ海を産卵場としており、生まれた稚魚は黒潮に乗って分散していきます。したがって、そのかなりの割合が黒潮から対馬暖流に乗り換えて日本海にやってくるのであり、津軽海峡におけるマグロ漁やイカ漁が有名であることから分かるように、産卵場と成育場を結びつける役割を日本海は果たしているのです。一方で、地球温暖化の足音は着実に日本海にも忍び寄ってきており、温暖化に伴う生物の応答メカニズムを解明する基礎的な研究が進みつつあります。その影響評価は資源の未来を予測することにもつながり、我々の重要な食糧資源の確保に貢献しています。

トークショー

新館9階 カルチャーサロン

●7月13日(土)

- 14:30 第1話:「もしも日本海が存在しなかったら?」 蒲生俊敬(東京大学教授)
15:30 第2話:「日本海をめぐる歴史と交易」 内山純蔵(総合地球環境学研究所客員准教授)

●7月14日(日)

- 10:30 第3話:「富山湾から覗く日本海の魚たち」 稲村修(魚津水族館館長)



司会:田崎 日加理(たさき ひかり)

フリーアナウンサー

東京学芸大学卒業後、九州朝日放送に入社し、「スーパーJチャンネル」や「KBCニュースピア630」など情報番組や報道番組などを担当。現在は、「カナフルTV」(tvk)、「世界は今JETROグローバル・アイ」(BS11)などに出演。



もしも日本海が存在しなかったら?

蒲生 俊敬

<プロフィール>

がもう としたか:東京大学大気海洋研究所教授。1979年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)。専門は化学海洋学、生物地球化学。東京大学海洋研究所助手、助教授、北海道大学大学院理学研究科教授を経て、現在に至る。2002年日本地球化学会賞、2005年日本海洋学会賞、2011年(財)海洋化学研究所海洋化学学術賞(石橋賞)受賞。海洋アライアンス副機構長

日本海は日本列島の北西側に接する小さな海です。「あたりまえでしょ」と言われそうです。ふだん意識することのない空気のような存在、あってもなくても、どちらでもかまわないと感じる人が多いかもしれません。しかし、それはたいへんな間違いであることを、トークショーの主題にしたいと思います。日本海はきわめて重要な役割を担う、われわれにとってなくてはならない存在です。今から約2000万年前、ユーラシア大陸のいちばん東の部分が大陸から切り離され、日本列島と日本海が誕生したわけですが、我が国にとって日本海が今の位置に今の大きさで存在することは、地球が太陽からほどよい距離にあることにも匹敵するほどの幸運なのです。それはどうしてか? もし日本列島が大陸にくっついたままで、日本海が存在しなかった場合を考えてみましょう。1) 日本の気候や植生は? 2) 歴史はどうなったか? 3) 日本の産業(漁業や海運業)は? 4) 文化や芸術は? 5) そもそも日本という国は成立したのか?……考えれば考えるほど、日本海のありがたさ、我々が知らず知らずのうちに享受している日本海の大きな恵みが見えてきます。



日本海における歴史と交易：ある「内海」の物語

内山 純蔵

<プロフィール>

うちやま じゅんぞう：総合地球環境学研究所客員准教授。1996年英国ダラム大学M.A.（環境考古学）。2002年博士（文学）（総合研究大学院大学）。専門は環境考古学・景観論。富山大学人文学部講師、助教授、総合地球環境学研究所研究部助教授・准教授を経て、現在に至る。

広大な外海とはちがい、大陸や列島で囲まれた日本海のような内海では、大昔から交易や交流が盛んでした。海上では、一度に大量の人や物の移動が可能です。そのため、内海は人々を結びつけ、文化交流を通して互いに刺激しあう中から、多様な文化が生まれてきました。

日本海の周辺に人類が現れたのは、4万5千年前のことです。日本海は、私たちの生活に欠かせない土器を世界に先駆けて生み出した地域のひとつです。ヒスイなどの分布をみても、日本海を通じた文化交流は、縄文時代にはすでに盛んだったことがわかっています。弥生時代には、水田稲作も、日本海をつたって広がりました。時代を下って江戸時代には、北前船 交易が大きな役割を果たしました。

今日、日本海は、厳しい国際政治のもとで、どちらかといえば分断の海になっています。そんな時代だからこそ、大きな歴史の中で重ねられてきた交易や交流を通じて、日本列島や東アジアの各地に独自の豊かな文化が作られてきた事実に今一度思いをはせるべきではないでしょうか。日本海が秘める人々の物語は、これからの東アジア、そして世界の姿を考えると、大きなヒントとなるにちがいありません。



富山湾から覗く日本海の魚たち

稲村 修

<プロフィール>

いなむら おさむ：魚津水族館館長（学芸員）。1980年東海大学海洋学部卒業。2012年3月北海道大学大学院環境科学院博士後期課程単位取得退学、同年6月博士（環境科学）。1980年より魚津水族館勤務、その間、魚津市役所農業水産課、魚津市役所企画政策課主幹を経て、現在に至る。

この地図は、富山県が進めている環日本海交流拠点作りをPRするために作成した通称「逆さ地図」です。以前、日本海側は「裏日本」と呼ばれていましたが、「大陸に向かって玄関は日本海側だ!」という事で発想の転換をしました。何処に富山県があるか、探していただけませんか？

富山県は日本海側の真ん中にあり、陸には標高3000m級の北アルプス立山連峰がそびえ、海側は水深1000m超の富山湾に臨んでいます。富山湾は、能登半島に抱かれた形で、太平洋岸の駿河湾、相模湾と並んで日本三大深湾の一つとされます。富山は、わずか数十kmの水平距離の間に4000mもの高低差を持つ、世界でも希な地域なのです。

日本海の表層には黒潮起源の対馬暖流が流れ、水深300m以深には水温2℃以下という冷たい「日本海固有水」が横たわっています。日本海の中央部に位置し、岸近くから急激に深くなる海底地形をもつ富山湾は、日本海の縮図ともいえます。今回は、広い日本海を視野に入れつつ、富山湾にくらす魚たちを覗いてみましょう。「魚たち」と言っても、尾鰭のついた魚類だけでなく、イカやカニなどの無脊椎動物も加え、「食」の話題も交えて紹介します。



パネル展示のご案内

期間：2013年7月10日(水)～7月16日(火)

場所：日本橋三越本店 本館3階 吹き抜け 及び 本館地下1階 フードコレクション

シンポジウムとトークショーに合わせて、「日本海」の自然や環境・生物、そしてそれを知るための海洋調査に関する展示を1週間にわたって開催しています。シンポジウムやトークショーの内容をより深く理解するための一助として、ぜひ足をお運びください。

<展示内容>

本館3階 吹き抜け：

日本海の成り立ちから環境・生物、歴史に至るまでの内容をパネルで紹介します。

本館地下1階 フードコレクション：

海の環境・生物などを調査するための調査船の模型、映像などを展示しています。

<展示品>



淡青丸(610トン) 模型



白鳳丸(3991トン) 模型

写真提供：海洋研究開発機構

—東京大学海洋アライアンスとは—

海に関係するあらゆる分野の研究者から構成され、海洋研究と人材育成の拠点作りを目指す分野横断型の東大内組織です。

—日本財団とは—

ボートレースの収益をもとに、海や船に関する事業、福祉やボランティア支援に関する事業、海外協力援助活動などの幅広い公益活動を行っている公益財団法人です。

期間中、地下1階フードコレクションでは、
日本海(富山県・石川県・新潟県)の「物産展」が同時開催されています。



事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 理学部 1 号館 134 号室
TEL：03-5841-4146 FAX：03-5841-8776
E-mail：oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp



〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル
TEL：03-6229-5111 FAX：03-6229-5110



公益財団法人 環日本海環境協力センター(NPEC)

〒930-0856 富山県富山市牛島新町 5-5
TEL：076-445-1571 FAX：076-445-1581
E-mail：webmaster@npec.or.jp